

労働安全衛生・環境保全 活動報告 2011



不二建設株式会社

はじめに

2011年度 当社の取組

■労働安全衛生活動■

現場ではリスクアセスメントを活用した危険予知活動の実施と「ヒヤリ・ハット」の活用を進めました。

全社的な取り組みとしては4,5月の各種安全教育、6月の全社安全衛生環境大会、毎月の店社パトロール、全国安全週間・全国労働衛生週間における全社パトロールを実施し、事故“ゼロ”を目指して活動を行いました。

◎安全教育

年度当初に社員・協力会社を対象に外部講師による職長・安全衛生責任者教育、内部講師による特別教育（締固め、刈払い機）を行い、延43名参加しました。

◎安全衛生環境大会

環境月間中の6月3日に開催しました。

安全・環境のシステムを導入している当社では上記の名称で実施しており、協力会社が一堂に会し、前年度の活動の反省と新年度の目標の達成を意思統一しました。

■環境保全活動■

- ・工事では地域で生活する方々に配慮した施工（CO2排出量削減、粉じんや騒音・振動の低減）を行ないました。
- ・地域の方々とのコミュニケーションを深めるため地域に根付いた貢献活動も継続して行いました。
- ・産業廃棄物（アスファルト・コンクリート殻、コンクリート殻）の再資源化（破碎処理）も4カ所で行なっています。また、食品リサイクル事業にも取り組み、産業廃棄物である食料品の残渣を再利用して液肥の製造も行なっています。

活動ダイジェスト (1)ー安全教育

職長・安全衛生責任者教育 4/11-12



特別教育 5/18,19,26

締固め



刈払い機



活動ダイジェスト (2)－安全大会

安全衛生環境大会 6/3

社長挨拶



安全工事表彰



安全スローガン表彰



講 話



決意宣言



活動ダイジェスト (3)－安全パトロール

全国安全週間に伴う 全社安全パトロール

＜国道36号千歳市錦町電線共同溝＞



＜農地防災 吉野(新十津川町)＞



＜道道今金北桧山線(北桧山町)＞



活動ダイジェスト (4)－安全パトロール

全国労働衛生週間に伴う 全社安全衛生パトロール

<道道月形幌向線(月形町)>



<農地防災 吉野(新十津川町)>



<一般国道452号 夕張市北栄舗装工事>



活動ダイジェスト (5)ー現場

労働安全衛生

動物対策グッズの使用



連絡車にAEDの常備



作業開始前の血圧測定



粉じん対策



活動ダイジェスト (6)ー現場

環 境

イメージアップ



ソーラー、風力発電



牛への騒音の配慮



粉じん対策



労働安全衛生活動

■労働安全衛生の現状

(業 界)

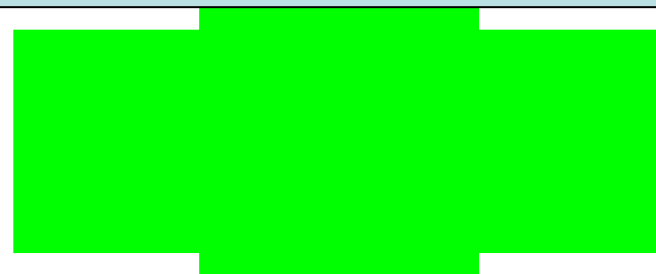
▲2011年の全産業と建設業における労災死傷者数・重大事故数は下表の通りです。死者数に占める建設業の割合は33%と、相変わらず産業別では1位となりました。

(当 社)

▽休業4日以上は、発生しませんでした。

今までの活動を継続し、事故“ゼロ”を目指し活動に取り組みました。

▽事故と共に、安心・安全に働くための健康な身体作りも重要です。情報発信をしながら有所見者の多い現状を変えていく取組を行いました。



<労働災害－2011年>

項 目	全産業	建設業	産業別順位
労災死者数	1,024 (- 171)	342 (-23)	1位
労災死傷者数 (休業4日以上)	111, 349 (+ 3,590)	22, 372 (+974)	2位
重大災害発生件数	255 (+ 10)	95 (+ 8)	2位

()内は前年との対比

■ 労働安全衛生目標 ■

2011年度の目標は下記のように設定しました。

1. 労働災害の防止

- ◆休業4日以上災害発生“ゼロ”
- ◆自転車・歩行者を巻き込んだ事故“ゼロ”
- ◆ライフラインの破損“ゼロ”

2. 交通災害の防止

- ◆交通規制に伴う一般車による事故“ゼロ”
- ◆社有車による事故“ゼロ”

3. 健康増進

- ◆血圧を10%下げる

1. 労働災害の防止

①休業4日以上災害発生“ゼロ”

◎事故は発生しませんでした。

- ・現道(交通量小～大)を規制しての作業、夜間作業、都市部や農地、山間地での作業と様々な条件の作業がありましたが、前年度の教訓を活かした取組で事故はありませんでした。
- ・しかし、安全パトロールでは同じような指摘が繰り返される工事がありました。また、危険の芽を摘み取る「ヒヤリハット」の活用もまだ不十分です。定着しつつあるリスクアセスメントを活用した危険予知活動と共に引き続き事故“ゼロ”の継続に取り組んでいきます。



②自転車・歩行者を巻き込んだ事故“ゼロ”

◎この目標は達成しました。

- ・協力会社（施工業者、交通誘導）との打合せ、作業計画書の作成、作業計画書に基づいた作業の実施等「協力会社任せにせず指導・確認をきちんと行う」、この繰り返しが目標達成に繋がりました。



③ライフラインの破損“ゼロ”

◎ライフラインの破損は発生ませんでした。

- ・都市部で掘削を伴う工事がありましたが、無事ライフラインを傷付けることなく終了しました。



2. 交通災害の防止

①交通規制に伴う一般車による事故“ゼロ”

●1件発生しました。

- ・現道の規制を行う時に交差点内で一般車両と接触しました。手順の確認が関係者間で十分ではなかったのが原因でした。

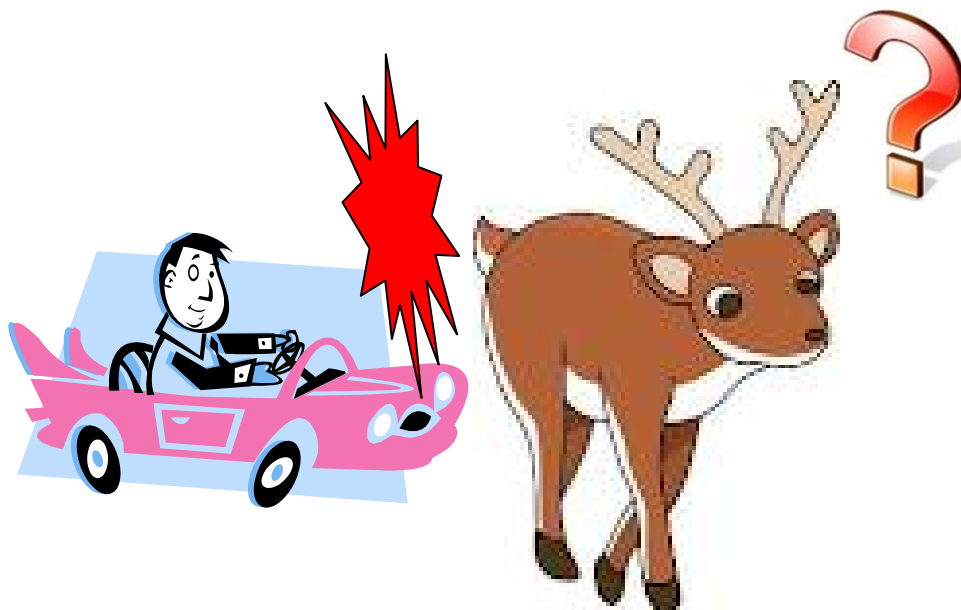


②社有車による事故“ゼロ”

●社有車（社員）による事故が多発しました。

- ・物損事故が8件（内対動物3件）発生。人身が絡むものはありませんでしたが、防ぐことの出来る事故がほとんどでした。労働災害を防止するのと同様、絶えず「安全運転」を注意喚起することが重要だと痛感しました。
- また、この目標を達成するためにセーフティーラリーに継続して参加し、完走率70%を目指した結果下記の達成率でした。

	チーム数	完走率
不二	17(23)	74%
協力会	30(43)	70%



3. 健康増進

◆血圧を10%下げる

●目標の達成よりも、目標としての妥当性に「？」。

- ・どうも健康管理に関しては目標の設定が曖昧になっています。
“苦し紛れ“に設定してしまったと反省しきりです。ただ、血圧測定を設定したことにより、社員のみならず高齢化が進んでいる工事関係者にも目が行くようになったのが成果と言えそうです。



環境保全活動

■CO2削減に関する日本の現状

2005年の京都議定書による1990年比－6%を達成する2012年を迎えましたが、既にゴールは「チャレンジ25キャンペーン」により先送りされました。目標だけが一人歩きしています。建設機械を多く使用する当社は出来る範囲で活動をして行きます。



<日本のCO2排出量の現状>

京都議定書「削減目標」
2012年(今年!)までに -6.0%

2010年(1990年比) -0.4%(※)

※金融危機の影響があった2009年度
を底に増加に転じている。

■環境目標■

2011年度の目標は下記の通り設定しました。

1. CO2排出量の削減

- ◆工事で使用する建設機械(重点管理)が排出するCO2を10%削減する

2. 資源の有効利用

- ◆主要資材(合材・路盤材・生コン)のロスを削減する

3. 社会貢献活動の推進

- ◆営業所・工事で、地域に根ざした活動(イベントへの参加、景観保持、環境保全)を1件以上行う
- ◆身近な貢献活動ーリングプル(12kg)とエコキャップ(22kg)を収集する

◎産業廃棄物の再利用◎

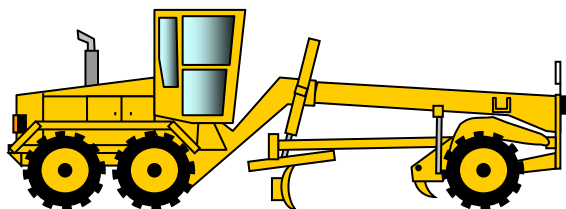
1. CO2排出量の削減

工事で使用する建設機械が排出するCO2を10%削減する

◎CO2の排出量を12.9%削減しました。

- ・舗装工事で使用するモーターグレーダー・アスファルトフィニッシャー・ローラーによるCO2の排出量(=燃料使用量)は多く、その削減は原価の低減に繋がり当社に即した目標です。
- ・2011年度の標準的な燃料使用量に対する実際の使用量に基づくCO2の排出量は下記の通りです。

標準的排出量	33,482kg-CO2 (12,803ℓ)
実際の排出量	29,147kg-CO2 (11,151ℓ)
削減した燃料(軽油)	1,652ℓ



- ・また、管理部門でもクールビズを実施し、エアコンの温度を28℃に設定するなどCO2排出量の削減に努めました。

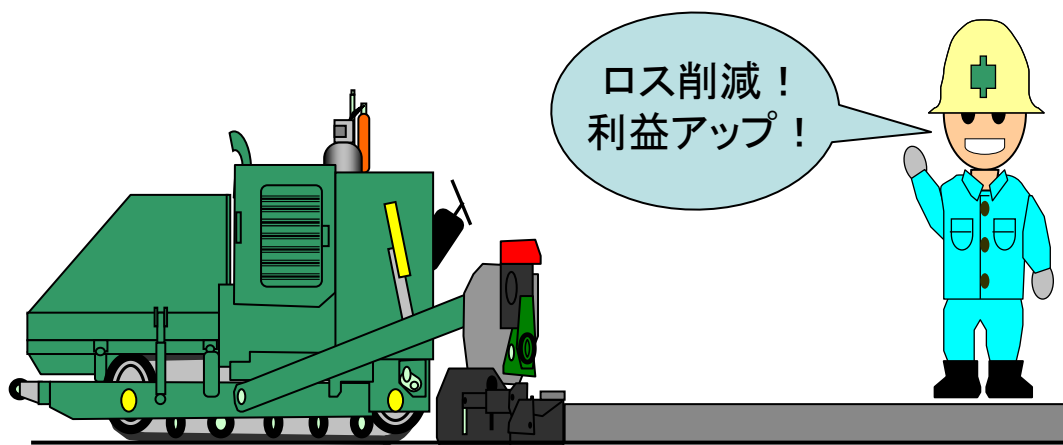


2. 資源の有効活用

主要資材のロス削減する

◎達成しました。

- ・主要資材であるアスファルト合材のロス削減は各工事で積極的
に取組まれ、ロスを減らしました。アスファルト合材のロス削減
の効果は大きく、
 - i. プラントでの製造(ドライヤーの重油、タイヤショベル
の軽油、プラントで使用する電気)
 - ii. 運搬(ダンプトラックの軽油)
 - iii. 施工(アスファルトフィニッシャー、ローラーの軽油)
 に伴うCO2の排出量も減らすことになります。
- ・この目標の成果は、結果として“利益”の増加にも結び付くこと
です。今後も大いに取り組んで行きます。路盤材、生コンに関し
ては、対象工事があまりありませんでした。



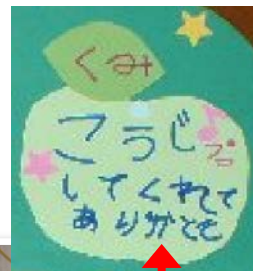
3. 社会貢献活動の推進

①営業所・工事で地域に根ざした活動1件以上

<小学校の運動会でトイレの提供と建設業のPR(新十津川町)>



<保育園入口補修(紋別市)>



＜創成川通りボランティアサポートプログラム(札幌市)＞

花植え



横断歩道滑り止め材散布



＜釧路湿原展望台駐車場入口の補修
(釧路市)＞

＜地域会館周りの補修
(新ひだか町)＞



②リングプル(12kg)、エコキャップ(22kg)の収集

＜リングプルの収集＞

- ・全社で9.5kgと残念ながら目標を下回りました。当社も含め、管内の加盟する会社で収集したリングプルは空知建設業協会で集約し、2007年からの累計は423kgになりました。



＜エコキャップの収集＞

- ・全社で17.1kg収集しましたが、目標に届きませんでした。エコキャップも空知建設業協会に集約し、2009年からの累計は458kgになっています。



◎セーフティーラリー「完走賞」の寄贈

・2011年度のセーフティーラリーの完走率は、目標としては設定していませんでしたが、社員の意識の高まりもあり74%を達成しました。

2012年7月4日に、施設がほぼ完成した「そらぷち」を訪問し、事務局長代理の佐々木さんに受け取って頂きました。
今回で4回目の贈呈となりました。



「平成 24 年 8 月に本格オープン of そらぷちキッズキャンプ施設群」
(写真左から、宿泊棟2棟、食堂・浴室棟、案内所、ほけんしつ)



◎産業廃棄物の再利用

アスファルトコンクリート、コンクリート殻の中間処理

- ・現在全道4カ所（滝川市、雄武町、浦河町、長万部町）で産業廃棄物中間処理施設が稼動しており、廃材（アスファルトコンクリート殻とコンクリート殻）の破碎処理による産業廃棄物の再生利用を行なっています。

2011年度の結果は下表の通りです。

- ・産業廃棄物（廃材）に関して、アスファルトコンクリート殻はリサイクルの「優等生」と言われる程リサイクル率が高いのですが、一部施設を除き受入量が処理量を上回り、工事の減少に伴い「受入→処理→利用」のサイクルが崩れてきています。

単位(t)

2011年度	廃材受入量	17,965
	破碎処理量	19,162
	販売・使用量	19,319
2012年3月末	廃材保管量	38,726
	再生骨材保管量	8,780

◎産業廃棄物の再利用

食品リサイクル事業の取組

- ・2009年からスタートした食品リサイクル事業では、食品製造業者から受入した残渣を処理し液肥(商品名:ひまわり)を製造しています。
- 2011年度は55.7tの残渣を受入れ、101m³の液肥を製造しました。

工場内の様子

